

地球シミュレータ/HPCI 戦略プログラム(分野 3)合同シンポジウムで今村教授が講演しました(2011/9/21)

9月21日(水)、秋葉原コンベンションホール(東京都千代田区)にて、超高速並列計算機「地球シミュレータ」と世界最高性能の「京コンピュータ」との連携によって、今後成果が期待される研究内容の紹介とシミュレーション科学の可能性を広く一般の方々に理解していただくことを目的とした「地球シミュレータ/HPCI 戦略プログラム(分野 3) 合同シンポジウム～防災・減災に資する地球変動予測 「京コンピュータ」との連携～」が開催されました(独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)主催)。

地球シミュレータは、2002年3月に、地球温暖化を始めとする気候変動の解析・将来予測、地震や地球内部変動の解明などの人類的課題に挑戦できる「世界最速水準のスーパーコンピュータ」として運用を始めました。特に、文部科学省の「21世紀気候変動予測革新プログラム」事業においては、その高い能力によって、当該事業の推進・進展に大きく貢献しているところです。

今回のシンポジウムにおいては、近年の気温上昇・集中豪雨等の異常気象、地震・津波等に関する防災・減災に関する研究について、スーパーコンピュータ及びシミュレーションの果たす役割・可能性について紹介し、300名もの参加をいただきました。

この中で、東日本大震災での津波被害と数値シミュレーションへの期待と題して、当センターの今村教授が講演を行い、過去の津波災害の教訓、数値シミュレーションと警報システム、東日本大震災での津波の実態、今後の取組について講演をしました。講演終了後にも、多くの質問を頂き、感心を持って頂いたと思います。



講演会場の様子



会場外でのパネル展示の様子



講演中の今村教授

シンポジウムのプログラムは
こちらからご覧になれます。

<http://www.jamstec.go.jp/esc/sympo2011/>